

# 横須賀市中小企業景況レポート

第12号（平成27年10月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課  
〒238-8550 横須賀市小川町11  
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団（以下「財団」と表記）がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：173社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査158社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成27年 4～6月の景況感（調査時点 平成27年6月1日）  
今期・・・平成27年 7～9月の景況感（調査時点 平成27年9月1日）  
次期・・・平成27年 10～12月の景況感（ // ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

## 景況及び4項目の調査結果（全業種）

\*DI値調査結果は裏面に記載

全体の景況感は、DI値△6P（前期比±0P）と横ばいです。次期は5Pで、今回比+11Pの改善が予想されています。項目別では、売上額DI値は△10Pで、前期比△1Pとほぼ変わりませんが、収益DI値は△6Pと低い値ながら、前期比では+8Pとなり、5業種中サービス業を除く4業種で改善しました。雇用人員DI値△14P、資金繰りDI値△15Pは、依然厳しい状態が継続しています。

業種別の景況感DI値は、製造業5P、不動産業9Pとプラス値を継続しています。但し、前期比では、各△5P、△27Pの低下となりました。なお、次期は両業種とも改善が見込まれています。

建設業の景況感DI値は、3Pと低位ながら、前期比+6Pと改善し、プラスに転化しました。

卸・小売業の景況感DI値は、△33Pと依然業況の厳しさ示しています。売上額DI値、収益DI値もともに△24Pと低位ながら、いずれも前期比+15Pと好転し、次期に向けても改善が見込まれています。

サービス業の景況感DI値△3Pは、前期比△3Pとほぼ横ばいの結果となりました。同業種の雇用人員DI値△22Pは、前期比△7Pと低下し、依然として人手不足感が継続しています。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- |                   |   |              |   |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上         | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | ○悪い：△15P以下   | ↓ |
| ○やや悪い：△6P～△14P    | ↘ |              |   |

## 業種別 調査結果と事業者の声

\*DI 値調査結果は裏面に記載

### (1) 製造業 5 <変わらない> →

景況感のDI 値5Pは、前期比△5Pの低下となりました。売上額DI 値の△5Pは、「好転」という声が減り、前期比では△17Pと悪化しました。収益DI 値△7Pは、前期比+5Pと横ばいですが若干の改善を示しています。次期については、売上額+20P、収益+19Pと、ともに改善が見込まれています。雇用人員のDI 値は△20Pで、人手不足感が続いています。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・売上は前年比横ばいながら、上場会社からの受注が多く、好況が続く。
- ・円安のおかげで製造業は活況。当分の間、不安なく事業運営していけそう。
- ・仕事は増えているが、円高時の価格安値設定が、円安になっても上がらず、収益はあまり改善しない。秋から取引先に5%程度の値上げをお願いする予定。
- ・仕入値の上昇分を価格に転嫁すべく、長年据え置いていた販売価格の値上げに踏み切った。但し、仕入値の上昇は予想よりも大きく、利益確保に苦戦している。
- ・同業間の競争激化や、販売納入先からの値下げ要請など、状況はまだまだ厳しい。

### (2) 建設業 3 <変わらない> →

景況感のDI 値3Pは、前期比+6P改善しプラスに転じました。売上額DI 値△6Pは前期比横ばいですが、収益DI 値は0Pながら、前期比+11P改善しています。なお、雇用人員DI 値は△10Pと低位ですが、前期比では+19P改善しました。次期景況感+13Pの改善が見込まれています。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・新築物件の受注が順調で増収となった。人手不足解消のため新卒も若干名採用した。
- ・オリンピック関連工事他、公共施設新築工事を受注し増収。鉄材の単価上昇が予想され、赤字受注にならないよう注意していく。
- ・大型受注に恵まれ売上は順調に推移しているが、材料費高騰によりコスト負担は増加している。
- ・今年に入り工事依頼は増加しているが、従業員の退職があり、受注を抑制せざるを得ず、売上は横ばい。
- ・横須賀市内は工事減少傾向。東京・川崎・横浜など近郊での受注が多く、管理面から、交通の便などを考慮したうえで請け負っている。

(3) 卸・小売業             $\Delta 33$             <悪い>            ↓

景況感 DI 値 $\Delta 33$ Pは、依然業況の厳しさを示しています。但し、前期比では、+4Pと改善方向に転じ、次期予想も+14Pの上昇を見込んでいます。また、売上額 DI 値、収益 DI 値とも $\Delta 24$ Pと低位ですが、前期比ではともに+15Pの改善を示しました。次期も改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・メーカーからの値上げ要請があるが、小売店への価格転嫁はできておらず、売上は微増だが、利益率は下がっている。
- ・消費動向は一部改善されているが、記録的猛暑の影響もあり、売上は前年を下回った。
- ・プレミアム商品券を取り扱っているが、売上増加には繋がっていない。近隣顧客の高齢化が進み、小売部門の低迷が続く。
- ・固定客からの受注は先細り傾向にある。新規顧客獲得および卸売先への販路拡大に向け活動中。
- ・プレミアム商品券の利用客が予想以上に多く、顧客は、普段の買い物に加えて米や酒を購入するため、売上の増加に繋がっている。

(4) 不動産業            9            <やや良い>            ↗

景況感 DI 値は9Pを堅持していますが、前期比では $\Delta 27$ Pと低下しました。売上額 DI 値20Pは前期比 $\Delta 9$ Pの低下ながら、一定の高水準を維持しています。収益 DI 値は30Pと高く、前期比+8P改善しました。次期も景況感 DI 値+9P、売上額 DI 値+7Pの改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・販売は順調であるが、価格は減少傾向にあり、件数を増加することで増収を確保している。
- ・根気強い交渉が実り、売れ筋の好物件の仕入が順調に行われた。
- ・自社で手掛ける大型プロジェクトの販売が本格化し、順調に契約、引渡しが出来ている。
- ・過去1年～2年以内に仕入れた物件は、ほぼ計画通りに販売されている。秋期には、既存商品の販売にも傾注し、前年比10%～15%の増収を見込む。

(5) サービス業             $\Delta 3$             <変わらない>            ⇨

景況感 DI 値は、「良い」「悪い」がともに減り、結果 $\Delta 3$ Pで、前期比 $\Delta 3$ Pとほぼ横ばいに止まりました。売上額 DI 値 $\Delta 12$ Pは、前期比 $\Delta 5$ P悪化し、収益も0Pで横ばいです。次期は、景況・売上・収益とも改善が予想されていますが、雇用人員 DI 値は $\Delta 22$ Pで、前期比 $\Delta 7$ Pと人手不足感が更に強くなっています。

☆事業者の主な声☆

- ・ネットによる全国網の受注は、スポット的だが効率的に順調に行われている。技術、ノウハウでの勝負を行っており、その積み上げが会社の価値となる。
- ・前年比5%の増収。プレミアム商品券利用の顧客が新規顧客を含め増加した。今後も同商品券利用客の取り込みを行い売上増加を図る。
- ・訪問介護、居宅介護支援を行うが、人手不足で新規利用者受入れには、慎重とならざるを得ない。
- ・商店街に立地するが、商店街自体の衰退を感じている。新規顧客の獲得に向け模索している。

## 【特別調査（年1回）】

## テーマ：事業承継について

人口の高齢化が進行する現在、次世代への社会の承継について盛んに議論がなされていますが、企業（事業）においても、長年の業歴・業績を積み上げてきた経営者の高齢化等により、今後の事業承継が、着眼すべき課題として大きくクローズアップされています。

今回、市内204企業（事業所）の経営者に対し、将来の事業承継に対する、現時点でのご方針および認識についてアンケートを実施し、結果103件の回答をいただきました。

データ件数としては、少な目な感がありますが、当該テーマに対する経営者のお考えを把握し、課題を確認するための基礎データとして掲載いたします。

### <調査方法について>

- ・ 湘南信用金庫、かながわ信用金庫および横須賀市役所から、景況調査対象の約204事業所に対し、その経営者の皆さまに匿名回答でのアンケートを実施しました。
- ・ アンケート用紙は、調査員による経営者様宛て手交・回収、または、郵送・返信としました。
- ・ 調査期間：平成27年8月18日～平成27年9月18日

（なお、以下に掲載する数字は、一部の項目が未回答の場合も他を無効とせず、各項目に回答いただいた件数をそのまま掲載しています。よって、項目毎の回答数の合計は、必ずしも回答者数に一致しません。）

## 1. 回答企業の属性概要

- ・ 業歴30年超の事業所が全回答数の78%を占め、内、50年超は43%に上ります。代表者の年齢も、60代以上が58%を占めます。
- ・ 現事業は、「親族の事業を承継した」が61%を占め、また、同族経営の事業が85%に上ります。

### （1）業歴

- ・ 30年超の長期事業が78%

	質問項目	件	%
①	10年未満	3	3%
②	～30年以下	20	19%
③	～50年以下	36	35%
④	50年超	44	43%
	(計)	103	100%

### （2）現事業の承継経緯

- ・ 先代からの事業承継が大半

①	現代表者が創業	37	35%
②	親族の事業を承継	63	60%
③	その他	5	5%
		-	-
	(計)	105	100%

（2項目迄選択）

### （3）代表者の年齢

- ・ 60代以上が58%

①	～40代	21	20%
②	50代	22	21%
③	60代	37	36%
④	70代～	23	22%
	(計)	103	100%

### （4）経営陣の構成

- ・ 同族経営が85%

①	代表者の単独経営	57	58%
②	親族との共同経営	27	27%
③	特定の社員と共同	13	13%
④	その他	2	2%
	(計)	99	100%

### （5）売上高

- ・ 各金額層に分散

	質問項目	件	%
①	5千万円以下	35	34%
②	～1億円以下	20	19%
③	～10億円以下	33	32%
④	10億円超	15	15%
	(計)	103	100%

### （6）純利益

- ・ 500万円以下が67%

①	1百万円以下	36	36%
②	～5百万円以下	31	31%
③	～1千万円以下	14	14%
④	1千万円超	19	19%
	(計)	100	100%

### （7）純資産

- ・ 各金額層に分散

①	5百万円以下	33	34%
②	～1千万円以下	23	24%
③	～5千万円以下	18	19%
④	5千万円超	23	24%
	(計)	97	100%

### （8）従業員数

- ・ 5人以下が最多

①	～5人以下	39	38%
②	～10人以下	20	19%
③	～30人以下	21	20%
④	30人超	23	22%
	(計)	103	100%

## 2. 事業承継に対する経営者のお考え

### (1) 事業承継意思

質問項目	件	%
① 事業を承継させたい	62	63%
② 決まっていない	24	24%
(小計)	86	-
③ 廃業を検討	13	13%
(合計)	99	100%

(1項目選択)

・事業を承継させたいとの回答(①)が63%で大半を占めましたが、一方、現時点で明確な継続方針を持たない方(②③)も37%に上ります。

(廃業を検討を選択された方については、後述)

右記、①事業を承継させたい、②決まっていないを選択された方の合計

<内①を選択>  
(承継させたい)

<内②を選択>  
(決まっていない)

### (2) 承継させたい現事業の柱

① 商品・技術の独自性	43	33%
② 顧客・販売基盤	60	46%
③ グループ関連パイプ	15	12%
④ ブランド力その他	12	9%
(計)	130	100%

(2項目迄選択)

33	34%	10	31%
42	43%	18	56%
11	11%	4	13%
12	12%	0	0%
98	100%	32	100%

・顧客、販売基盤がトップとなりました。長年築き上げた顧客販路を重視されていることが窺えます。

### (3) 将来の事業承継者

① 決まっている	41	49%
② 決まっていない	43	51%
(計)	84	100%

41	67%	0	0%
20	33%	23	100%
61	100%	23	100%

・後継者は、半数が決まっていない状況です。

注：上記(1)の項目①②の内、本項目への未回答が2件ありました。

### (4) 事業承継上の問題点

① 後継者の確保	40	14%
② 雇用(社員)の維持	35	12%
③ 事業の将来性	63	22%
④ 地域の需要・発展性	26	9%
⑤ 品質・技術の承継	28	10%
⑥ 顧客・販路の承継	36	13%
⑦ グループ・関連先パイプ	10	4%
⑧ 業績・財務面の悪化	24	8%
⑨ 承継に必要な資金調達面	20	7%
⑩ その他	1	0%
(計)	283	100%

(4項目迄選択)

26	12%	14	19%
28	13%	7	10%
46	22%	17	23%
20	10%	6	8%
22	10%	6	8%
29	14%	7	10%
9	4%	1	1%
16	8%	8	11%
14	7%	6	8%
0	0%	1	1%
210	100%	73	100%

・事業の将来性への不安を筆頭に、後継者の確保、顧客基盤の維持が多く選択されました。

### (5) 事業承継ノウハウへの関心

① 強い関心がある	26	24%
② 関心がある	32	30%
③ 今後考える必要がある	39	36%
④ 対策は完了している	10	9%
⑤ その他	1	1%
(計)	108	100%

(2項目迄選択)

25	31%	1	4%
26	33%	6	21%
18	23%	21	75%
10	13%	0	0%
1	1%	0	0%
80	100%	28	100%

・関心がある、今後考える必要があるが90%で、対策は完了しているとの回答は、9%に止まりました。

### 3. 事業承継に関して必要とする習得事項

- ・ 後継者のマネジメント力を選択された方が大半で、やはり、経営する「人」が重視されています。

①事業を承継させたい、②決まっていないを選択された方の合計

<①を選択> (承継させたい)      <②を選択> (決まってない)



①	後継者のマネジメント力	70	57%
②	相続に係る知識	30	25%
③	株式譲渡・M&Aノウハウ	19	16%
④	その他	3	2%
	(計)	122	100%

(2項目迄選択)

	53	60%
	21	24%
	11	13%
	3	3%
	88	100%

	17	50%
	9	26%
	8	24%
	0	0%
	34	100%

### 4. 廃業を検討

- ・ 本項目への回答は、13社（事業所）となりました。事業の将来性への不安、業績の悪化、子息に事業を継続する意思がない等の理由が挙げられています。

#### (1) 業歴

質問項目	件
① 10年未満	1
② ～30年以下	1
③ ～50年以下	7
④ 50年超	4
(計)	13

#### (2) 現事業の承継経緯

① 現代表者が創業	7
② 親族の事業を承継	6
③ その他	0
(計)	13

#### (3) 代表者の年齢

① ～40代	2
② 50代	1
③ 60代	7
④ 70代～	3
(計)	13

#### (4) 売上高

質問項目	件
① 50百万円以下	11
② ～100百万円以下	0
③ ～1,000百万円以下	2
④ 1,000百万円超	0
(計)	13

#### <廃業を選択した理由>

① 事業に将来性がない	9
② 地域に需要・発展性がない	3
③ 息子・娘がいない	0
④ 息子・娘に継ぐ意思がない	5
⑤ 適当な後継者がいない	3
⑥ 業績・財務面の悪化	8
⑦ 承継に必要な資金調達が困難	1
(計)	29

(4項目迄選択)

### 5. 自由意見

- ・ 業績財務内容の悪化に対する打開策や、各種補助制度に関する相談窓口の設置や、セミナー開催などを考えてほしい。
- ・ 事業承継に関する小冊子などがあれば入手したい。予備知識を得た上でセミナーなどに参加したい。
- ・ 事業承継を考えている人たちのグループ化や、定期的な情報交換の場がほしい。事業承継の成功事例などをセミナーなどで得たい。
- ・ 少子高齢化の時代、中小企業の存続が難しくなっている。中小企業の地域における重要な役割に対し、補助制度を考えてもらいたい。
- ・ 地域の活性化、発展が最も必要である。人口減少を食い止め、企業誘致をすることが必要。

## 6. 企業（事業所）属性別データ

以下5項目について、「現事業の開始経緯」「業歴」「売上規模」別の回答結果を掲載します。

	<現事業の開始経緯>		<業歴>		<売上規模>	
	現代表が創業	既事業を承継	50年以下	50年超	1億以下	1億超
<b>(1) 事業継続意思</b>						
① 事業を承継させたい	21 60%	40 65%	31 55%	31 72%	28 52%	34 76%
② 決まっていない	7 20%	16 26%	16 29%	8 19%	15 28%	9 20%
③ 廃業を検討	7 20%	6 10%	9 16%	4 9%	11 20%	2 4%
(計)	35 100%	62 100%	56 100%	43 100%	54 100%	45 100%
<b>(2) 承継させたい事業の柱</b>						
① 商品・技術の独自性	15 36%	27 31%	25 35%	18 29%	17 29%	26 35%
② 顧客・販売基盤	19 45%	41 47%	31 44%	31 50%	25 42%	37 50%
③ グループ関連パイプ	4 10%	10 11%	10 14%	6 10%	8 14%	8 11%
④ ブランド力その他	4 10%	9 10%	5 7%	7 11%	9 15%	3 4%
(計)	42 100%	87 100%	71 100%	62 100%	59 100%	74 100%
(2項目迄選択)						
<b>(3) 将来の事業承継者</b>						
① 決まっている	12 43%	27 48%	17 37%	25 63%	17 41%	25 56%
② 決まっていない	16 57%	29 52%	29 63%	15 38%	24 59%	20 44%
(計)	28 100%	56 100%	46 100%	40 100%	41 100%	45 100%
<b>(4) 事業承継上の問題点</b>						
① 後継者の確保	17 17%	23 12%	27 17%	14 10%	19 14%	22 14%
② 雇用（社員）の維持	14 14%	22 12%	21 14%	14 10%	18 13%	17 11%
③ 事業の将来性	19 19%	47 25%	33 21%	33 24%	29 21%	37 24%
④ 地域の需要・発展性	7 7%	20 11%	11 7%	16 12%	14 10%	13 8%
⑤ 品質・技術の承継	13 13%	16 8%	16 10%	13 9%	15 11%	14 9%
⑥ 顧客販路の継承	12 12%	23 12%	19 12%	18 13%	19 14%	18 12%
⑦ 関連先等とのパイプ	2 2%	6 3%	5 3%	6 4%	5 4%	6 4%
⑧ 業績財務面の悪化	7 7%	16 8%	11 7%	14 10%	10 7%	15 10%
⑨ 必要な資金調達	7 7%	15 8%	11 7%	9 7%	9 7%	11 7%
⑩ その他	0 0%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	1 1%
(計)	98 100%	189 100%	155 100%	137 100%	138 100%	154 100%
<b>(5) 経営者の出資比率</b>						
① 1/3以下	4 11%	13 21%	8 14%	11 26%	10 19%	9 19%
② 1/3超～1/2以下	4 11%	7 11%	8 14%	3 7%	7 13%	4 9%
③ 1/2超～2/3未満	4 11%	9 15%	7 13%	6 14%	6 12%	7 15%
④ 2/3以上	24 67%	32 52%	33 59%	23 53%	29 56%	27 57%
(計)	36 100%	61 100%	56 100%	43 100%	52 100%	47 100%

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成27年4～6月の景況感（調査時点 平成27年6月1日）  
 今・・・今期 平成27年7～9月の景況感（調査時点 平成27年9月1日）  
 次・・・次期 平成27年10～12月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	177	40	34	49	14	40
今期	173	40	39	42	11	41
次期	171	40	38	41	11	41

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	22	20	23	35	33	33	18	21	24	8	12	10	36	27	36	25	12	22
	変わらず	50	54	59	40	39	47	61	61	68	47	43	61	64	55	46	50	73	63
	悪い(B)	28	26	18	25	28	20	21	18	8	45	45	29	0	18	18	25	15	15
	DI値(A)-(B)	△6	△6	5	10	5	13	△3	3	16	△37	△33	△19	36	9	18	0	△3	7
	今-前、次-今	0	11		△5	8		6	13		4	14		△27	9		△3	10	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	22	21	26	40	30	35	21	18	34	8	21	10	36	30	45	18	12	20
	変わらず	47	48	55	32	35	45	53	58	53	45	34	63	57	60	37	57	64	63
	悪化(B)	31	31	19	28	35	20	26	24	13	47	45	27	7	10	18	25	24	17
	DI値(A)-(B)	△9	△10	7	12	△5	15	△5	△6	21	△39	△24	△17	29	20	27	△7	△12	3
	今-前、次-今	△1	17		△17	20		△1	27		15	7		△9	7		△5	15	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	19	19	25	23	23	35	15	21	32	12	12	7	36	30	45	20	17	22
	変わらず	48	56	56	42	47	42	59	58	50	37	52	69	50	70	37	60	66	66
	減少(B)	33	25	19	35	30	23	26	21	18	51	36	24	14	0	18	20	17	12
	DI値(A)-(B)	△14	△6	6	△12	△7	12	△11	0	14	△39	△24	△17	22	30	27	0	0	10
	今-前、次-今	8	12		5	19		11	14		15	7		8	△3		0	10	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	4	5	6	3	10	10	3	3	5	4	8	8	0	0	0	8	2	2
	適正	73	76	75	67	60	60	65	84	82	82	82	79	86	90	82	69	74	76
	少ない(B)	23	19	19	30	30	30	32	13	13	14	10	13	14	10	18	23	24	22
	DI値(A)-(B)	△19	△14	△13	△27	△20	△20	△29	△10	△8	△10	△2	△5	△14	△10	△18	△15	△22	△20
	今-前、次-今	5	1		7	0		19	2		8	△3		4	△8		△7	2	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	10	9	8	10	15	13	9	8	5	4	2	2	14	10	9	15	10	12
	さほど苦しくない	66	67	76	80	60	72	59	71	77	55	66	78	79	70	73	70	73	76
	苦しい(B)	24	24	16	10	25	15	32	21	18	41	32	20	7	20	18	15	17	12
	DI値(A)-(B)	△14	△15	△8	0	△10	△2	△23	△13	△13	△37	△30	△18	7	△10	△9	0	△7	0
	今-前、次-今	△1	7		△10	8		10	0		7	12		△17	1		△7	7	

〈参考〉昨年同期と現在の売上比較(回答 149社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	54社	36.2%	33.6%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	46社	30.9%	33.6%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	49社	32.9%	32.8%
DI値(A)-(B)		3.3 P	0.8 P

